

クリエイタースクールで学ぶ「JSP/Javaサーブレット」

NO.06 : JSP、JavaBeans (特徴と仕組み)

- 6-0 JSPとは -

JSPは、Java Server Pagesの略で、Sun Microsystemsが開発したスクリプト言語です。サーブレットのみでWebアプリケーションを構築することは可能ですが、プログラムはプログラマが作成し、WebデザインはWebデザイナーが行うという作業形態が主流の現在では、プログラムの再利用性やWebデザイナーとの作業の効率化を考えると、サーブレットはHTMLをソースコード内に記述しなければならない為、単なるデザインの変更としてHTMLを修正する場合でもコンパイルが必要になり、作業効率がよいとはいえません。

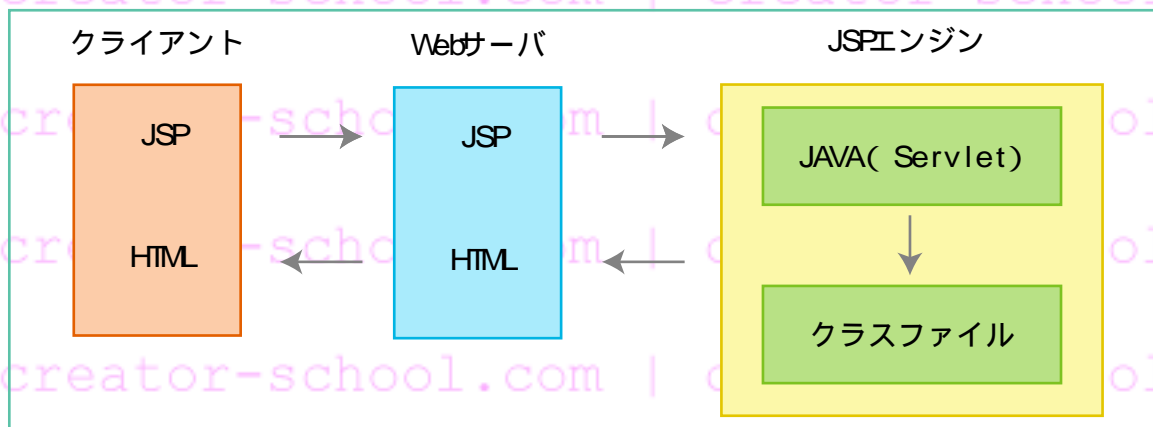
JSP(Java Server Pages)は、このような問題を解決するために用いられるツールで、サーブレットとHTMLを分割して管理することが容易にできます。

- 6-1 JSPの実行手順 -

実行エンジン (Tomcat等) が、JSPファイルを自動的にサーブレットへと変換し、コンパイルから実行まで行います。

このように、入出力表示に関しては表示処理の得意な JSPに担当させ、制御に関しては、制御処理が得意なサーブレットに担当させ、サブルーチン部分の担当は JavaBeansというように、それぞれの特性に基づき、言語を使い分けることにより効率的に処理を行います。

JSPの実行手順



Webアプリケーションとは、アプリケーションを構成するサーバ側リソース (サーブレット、Enterprise JavaBeans、JSP、HTML、その他のリソースファイル) をまとめたアプリケーションのことをいいます。Webアプリケーションは、warアーカイブとしてまとめることにより、Tomcatが自動的にインストールを実行したり、Webアプリケーションの配布することが容易にできるようになります。



参考